

令和2年度事業報告および収支決算（案）**1. 事業実施概況等****（1）令和2年度基本方針**

○令和2年度は、以下3項目を「基本方針」として取り組みを開始。

- ・①備蓄米の生産拡大・定着化、②飼料用米複数年契約の生産拡大・本作化、③麦・大豆の生産拡大など「水田フル活用」の取り組みを徹底させ、これまで到達した米価・所得の維持・向上を実現する。
- ・地域の関係者が一体となり、「需要に応じた米生産」にとどまらず、園芸作物や大豆・麦等の拡大もふくめて水田農業の将来像を描き、収入拡大・コスト削減による所得向上に取り組む。
- ・担い手の育成・確保や農地集積・耕作放棄地の解消の促進等を通し、本県水田農業・地域農業の振興を促進する。

（2）令和3年以降の福島県の水田農業のあり方にかかる今後の方向検討**ア. 趣旨**

- 平成30年産米からの国の「米政策の見直し」による「生産数量目標」の廃止等に対応するため、県推進会議として平成28年12月「30年以降の福島県水田農業の推進方針」（以下推進方針という）を決定。
- 以降、特に需要に応じた米生産については、平成30年・令和元年・令和2年と「生産数量の目安（面積）」を設定し、水田フル活用に取り組んできたところ。
- 令和2年産米は、推進方針策定から3年目となるが、基本的に過剰基調の需給環境にあるなか、一方で担い手減少や耕作放棄地の拡大など生産基盤の崩壊が進みつつある。また需要構造をみても需要減少のなかでも業務用比率が拡大するなどの変化が進みつつある。
- このため、今後の水田農業は水田フル活用と同時に、担い手・農地対策などの生産基盤維持のための取り組みは極めて重要になるとともに、需要減少の中で相対的な競争力を確保するため生産コストの削減や流通・販売対策が重要になる。
- さらにこれらを県域全体の方針として提示するとともに、地域農業再生協議会ごとの取り組み強化が重要となる。
- このため、これまで推進方針において提起した対策のなかで、今後、取り組みの重点化を図るものについて、県推進会議として再検討をすすめ

令和3年産米以降の取り組みに反映させることを目的として検討実施。

イ. 検討経過等

- 「30年以降の水田農業のあり方検討専門部会」において具体的検討をすすみ、推進方針改定を実施。
- 7月7日、8月6日の2回「専門部会」を開催、9月10・11日には地域農業再生協議会との意見交換会を開催のうえ、10月21日に第3回専門部会を開催し、中間的取りまとめと当面の令和3年産対策についての方向性を整理し、11月27日総会で「令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向」を決定のうえ、12月1日開催の地域農業再生協議説明会でポイントを説明。
- 主なポイントは、地域における取り組みを強化することを目的とした将来的な地域農業再生協議会別「生産数量の目安（面積）」の廃止、県域・地域農業再生協議会単位での制度別・用途別作付計画と連動した10a当たり収入・生産コスト目標および銘柄別作付計画の策定および主要指標の見直し等を内容としている。

(3) 需要に応じた生産・販売の取り組み

ア. 令和2年産

- 令和2年産主食用米作付面積は、新型コロナウイルス感染症拡大による全国的な需要の減少、民間在庫の積み上がりが顕著となるなか、国は飼料用米等への推進期間を9月18日まで延長、この結果、飼料用米・備蓄米への転換がすすみ、全国で前年産を▲13,000ha下回る結果。福島県においても県の独自助成（5,000円/10a）の措置等により主食用米作付面積は前年産を▲1,200ha下回る59,200haに減少、しかし「生産数量（面積）の目安」対比では+200ha上回る結果。
- 令和2年産米の作柄は全国作況が「99」の平年並みとなったため、生産量は国が示した必要生産量709～717万トンを上回る723万トン、地域には北海道・東北・北陸の主産県が豊作、西日本が不作の構図。福島県の作況は「102」のやや良。この結果米価は全国・福島ともに令和元年産米対比マイナスで推移（令和3年3月末現在福島県は▲1,200円/60kg程度下落）。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、とりわけ業務用需要が喪失したことから、業務用向け販売比率の高い福島への影響は大きく、米価

水準の下落はもとより、契約・販売進度の下落が顕著（令和3年3月末現在契約進度▲18%、販売進度▲4%）。

イ. 令和3年産

- 令和2年11月の国の基本指針において令和3年産米の必要生産量は、需要量の大幅な減少により令和2年産米生産量（平年作）から▲36万トンの程度的大幅削減が必要とされ、面積ベースでは全国で▲6.7万ha程度の削減が必要となる極めて厳しい見通しが提示。
- このため、県推進会議として令和3年産米について早い段階から検討を開始し、①備蓄米については令和2年産米規模の確保、②天のつぶを主体とする飼料用米の大幅拡大、③低価格帯需要を目標にコスト削減の取り組みと並行した加工用米・輸出用米の大幅拡大、④品目別目標を設定した麦・大豆、高収益作物への転換を方針として掲げ、制度別・用途別作付計画を策定し取り組みを展開。主食用米の「生産数量（面積）の目安」については福島県の過去の需要実績シェアを考慮し、55,700haと前年産米実績対比▲3,500ha、94%の水準）に設定。
- 以上の方針のもと地域農業再生協議会・市町村行政・方針作成者と連携し、取り組みを展開、この過程で産地交付金の他、県をはじめ多くの市町村行政において独自支援を措置。
- 備蓄米については、令和3年1月の第1回入札で一般枠も含む買入予定数量の99%超が落札。福島県は県別優先枠27,050トンは全量落札したが県全体としては令和2年度実績を下回る結果。
- 更に「水田リノベーション事業」等を活用した、輸出用米・加工用米、麦・大豆等への転換が計画を下回り、飼料用米は計画を上回る実績となっているものの令和3年3月末時点の主食用米の作付面積は、前年実績を▲1,400ha程度下回る結果にとどまり、生産数量の目安（面積）達まで今後飼料用米を中心に更に2,000ha以上の削減が必要な状況。
- 県推進会議としては、需要に応じた備蓄米・飼料用米の推進に当たって、令和2年8月・令和3年2月生産者向新聞広告を掲載。令和2年12月、令和3年3月（2回）生産者向けポスター・チラシ（それぞれポスター1000部・チラシ10万部程度）配布するとともに、令和3年2月3日県内関係者300名程度が参集し、「福島県水田農業の確立に向けた推進大会」をビッグパレットふくしまで開催。その他東北農政局福島県拠点等とともに地域農業再生協議会・方針作成者との地域別・個別意見交換会を開催し推進。

(4) 令和2年度における諸課題等

ア. 令和2年産

- 5年連続で生産者手取りの上昇が続いたこともあり、需給環境が生産者に迅速・正確に伝わっておらず、運用改善がはかられた備蓄米の取り組みがなければ、主食用米作付面積は、前年産を上回る結果になっていると想定。
- 期限延長により飼料用米への転換も一定程度すすんだものの、手取水準が明らかに有利な備蓄米への早期からの取り組みにより、主食用米面積は減少したというのが実態、
- 一方、備蓄米の生産者結び付きの廃止、推進期間の延長は入口対策の重要性を希薄化させた懸念。
- 飼料用米についても、県の地方創生臨時交付金を活用した追加助成があったことが主食用米からの転換推進に大きな効果を発揮したと考えられ、次年産以降、逆に課題として残る結果。
- 飼料用米については生産面積が変動し、定着・本作化がすすまないとともに、多収品種も含め実収量が低く制度メリットが実現できない地域農業再生協議会も多くみられる状況。
- 地域農業再生協議会の取り組みもマンネリ化、「水田フル活用ビジョン」を作成することに、労力・時間がかかり、長期ビジョン・方針が検討されていない懸念。特に地域における米価・所得・コストにかかる議論はなされていないと想定。
- 特に品種構成のあり方も含め10a当り収入視点での生産対策、コスト削減の必要性にかかる生産者への意識づけが不十分。
- 一部地域農業再生協議会における水田フル活用ビジョンの作成・承認が大幅に遅れ、方針を提示し、推進するという実態と乖離している状況。
- 担い手対策・農地集積・耕作放棄地対策との取り組み連動が不十分、県域段階でも十分な取り組みとなっていない、また担い手対応として、麦・大豆および園芸等高収益作物への転換、ナラシ対策や収入保険加入への導入推進についての取り組みが不十分な結果。

イ. 令和3年産

- 需給環境が生産者に十分伝達されていないこと、地域的に飼料用米制度の理解が生産者・方針作成者を含め不十分であること、そうはいつても何とかなるのではないかという理由なき期待感等から、県・市町村独自助成を含めると明らかに飼料用米の手取りが優位であるという点が十分浸

透していない状況。

- また、現在の需給環境を改善するためには、令和3年産米の大幅な生産削減以外方法がなく、今後の展望が不透明な中、飼料用米への転換は必須であるものの、将来的には従来の生産数量の目安（面積）、水田活用の直接支払交付金を中心とする取り組みのみでは限界があり、地域農業再生協議会単位での制度別・用途別作付計画、米価・生産コスト・所得目標、担い手・農地対策と連動した実効ある「水田フル活用ビジョン」の構築をどうすすめるべきかが最も重要な課題。
- このため、当面の需給対策の取り組みを梃にして、加工用米・輸出用米・麦・大豆、高収益作物等の他作物への転換促進の議論を加速させることが必要。

2. 事業実施状況

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
4月10日 13日 14日	JA福島さくら飯野支店 相馬市役所 喜多方市役所	令和2年産米需要に応じた生産等にかかる意見交換会 ○水田農業をめぐる情勢 ○地域における推進状況と今後の推進の考え方等 参集者：地域農業再生協議会（いわき市、相馬市、喜多方市）、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議事務局 計43名
5月14日	JA福島ビル	令和元年度下期内部監査 監査員：2名 出席者：県、中央会 4名
5月20日	県自治会館	令和元年度監事監査 監事：2名 出席者：県、中央会 4名

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
5月29日	JA福島ビル	<p>令和2年度第1回総会</p> <p>○報告事項</p> <p>報告第1号 令和元年度下期内部監査の結果について</p> <p>報告第2号 水田農業をめぐる情勢について</p> <p>報告第3号 令和2年度福島県水田フル活用ビジョンの策定状況について</p> <p>○議題</p> <p>議案第1号 令和元年度事業報告および収支決算について</p> <p>議案第2号 令和2年産備蓄米における地域農業再生協議会別面積配置にかかる対応の考え方について</p> <p>議案第3号 令和3年度以降の水田農業のあり方検討について</p> <p>※書面による議決</p>
7月2日	NOSAI いわせ石川支所	<p>当面の需給環境と今後の需要に応じた米生産の推進にかかる意見交換会</p> <p>○当面の需給環境等について</p> <p>○今後の需要に応じた米生産の推進について</p> <p>参集者：地域農業再生協議会、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計75名</p>
7月7日	杉妻会館	<p>令和2年度第1回「30年以降の水田農業のあり方検討専門部会」</p> <p>○「30年以降の福島県水田農業の推進方針」における「需要に応じた米生産への取り組み」にかかる成果と課題等について</p> <p>出席者：構成員6名、アドバイザー（東北農政局福島県拠点）1名 計7名 （事務局5名、東北農政局福島県拠点1名）</p>

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
7月8日 14日 16日 17日 21日 22日 31日	喜多方市役所 会津坂下町役場 須賀川市役所 白河市役所 相馬市役所 JA福島さくら飯野支店 会津若松市役所 郡山市総合福祉センター 南相馬市小高区役所 会津美里町役場	令和2年産米の需要に応じた生産・販売の推進に関する意見交換 意見交換事項 ○飼料用米の推進について 参集者：地域農業再生協議会（喜多方市、会津坂下町、須賀川市、白河市、相馬市、いわき市、会津若松市、郡山市、南相馬市、会津美里町）、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議事務局 計129名
7月13日	農業総合センター	令和2年産米の需要に応じた生産の推進に係る意見交換会 ○需給状況について ○令和2年産米における需要に応じた生産に向けた対応等について ○令和2年産の主食用米から飼料用米等への転換の必要性について 参集者：方針作成者、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計52名

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
7月30日	NOSAI いわせ 石川支所	飼料用米推進緊急対策事業及び今後の対応に関する説明会（福島県水田畑作課主催） ○需要に応じた米生産の取り組み状況等と今後の対応について ○飼料用米推進緊急対策事業について 参集者：地域農業再生協議会、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計59名
7月31日	ビッグアイ	福島県稲作経営者会議会長等との意見交換 出席者：稲作経営者会議、中央会 計6名
8月6日	ふくしま中町 会館	令和2年度第2回「30年以降の水田農業のあり方検討専門部会」 ○令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向（中間論点整理）について 出席者：構成員6名、アドバイザー（東北農政局福島県拠点）1名 計7名 （事務局4名、東北農政局福島県拠点1名）
8月7日	(有)降矢農園	うつくしまふくしま農業法人協会会長・副会長との意見交換会 ○水田農業をめぐる情勢について 出席者：うつくしまふくしま農業法人協会、県推進会議事務局 計7名
8月20日		飼料用米推進に向けた新聞広告掲載 「飼料用米の生産拡大に取り組みましょう！」 ・新聞広告 3紙 （福島民報、福島民友、日本農業）

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
9月4日	JA会津よつば本店	令和2年産米の需要に応じた生産・販売の推進に係る意見交換（東北農政局福島県拠点主催） 出席者：JA会津よつば、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議事務局 計13名
9月10日 11日	農業総合センター ピカリンホール 学びの森	「令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向」に関する地域別意見交換会 ○令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向（中間論点整理）（素案）について 参集者：地域農業再生協議会、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計86名
10月20日	福島県米穀肥料協同組合	令和3年産米の需要に応じた生産・販売の推進に向けた意見交換（東北農政局福島県拠点主催） 出席者：福島県米穀肥料協同組合、東北農政局福島県拠点、県推進会議事務局 計11名
10月21日	ふくしま中町会館	令和2年度第3回「30年以降の水田農業のあり方検討専門部会」 ○令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向（素案）について ○令和3年産米の取り扱いの考え方（素案）について ○今後のすすめ方（素案）について 出席者：構成員5名、アドバイザー（東北農政局福島県拠点）1名 計6名 （事務局5名、東北農政局福島県拠点1名）

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
11月12日	農業総合センター	<p>米の需給情勢等にかかる説明会</p> <p>○米をめぐる状況について</p> <p>○米の需給情勢と令和3年産米の取り扱いの基本的考え方について</p> <p>参集者：地域農業再生協議会、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計77名</p>
11月18日	JA福島ビル	<p>令和2年度上期内部監査</p> <p>監査員：2名 出席者：県、中央会 4名</p>
11月18日	JA福島ビル	<p>令和2年度第1回事務局会議</p> <p>○令和2年度第2回総会議案について</p> <p>出席者：各事務局担当者 計13名</p>
11月27日	ふくしま中町会館	<p>令和2年度第2回総会</p> <p>○報告事項</p> <p>報告第1号 上期内部監査報告</p> <p>報告第2号 水田農業をめぐる情勢等について</p> <p>○議題</p> <p>議案第1号 令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向について</p> <p>議案第2号 令和3年産米の取り扱いの基本的考え方について</p> <p>議案第3号 令和3年産米の地域の合理的な単収の設定について</p> <p>出席者：本人出席者7名、代理出席者2名 委任状出席者2名 計11名 (事務局7名、東北農政局福島県拠点2名)</p>

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
12 月		<p>農業者向けポスター・チラシの発行・送付 「令和3年産米の需要に応じた生産・販売のために」</p> <p>作成部数 ポスター 1,000 部 チラシ 100,000 部</p>
12 月 1 日	JA 福島ビル	<p>令和3年産米の需要に応じた生産・販売にかかる地域農業再生協議会説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水田農業をめぐる情勢等について ○令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向について ○令和3年産米の取り扱いの基本的考え方について ○令和3年産米の地域の合理的な単収の設定について <p>参集者：方針作成者、地域農業再生協議会、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計 181 名</p>
12 月 15 日	JA 会津よつば坂下本店 JA ふくしま未来本店	<p>令和3年産米の需要に応じた生産・販売の推進に係る意見交換（東北農政局福島県拠点主催）</p> <p>出席者：JA 会津よつば、JA ふくしま未来、東北農政局福島県拠点、県推進会議事務局 計 27 名</p>

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
12月21日 22日	喜多方市役所 会津坂下町役場	<p>令和3年産米の需要に応じた生産・販売の推進に関する意見交換 意見交換事項 ○令和3年産米の需要に応じた生産・販売の推進について</p> <p>参集者：地域農業再生協議会（喜多方市、会津坂下町）、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議事務局 計29名</p>
1月12日	JA福島ビル	<p>新市場開拓に向けた水田リノベーション事業等にかかる説明会 ○水田農業をめぐる情勢について ○令和2年度第3次補正予算について ○「新市場開拓に向けた水田リノベーション事業」等への取り組みの基本的考え方について</p> <p>参集者：地域農業再生協議会、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計63名</p>
1月14日 28日	須賀川市役所 会津若松市役所 郡山市総合福祉センター	<p>令和3年産米の需要に応じた生産・販売の推進に関する意見交換 意見交換事項 ○令和3年産米の需要に応じた生産・販売の推進について</p> <p>参集者：地域農業再生協議会（須賀川市、会津若松市、郡山市）、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議事務局 計40名</p>

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
1月18日	JA 福島ビル	<p>令和2年度第2回事務局会議</p> <p>○令和2年度第3回総会議案等について</p> <p>出席者：各事務局担当者 計14名</p>
1月27日	福島県庁	<p>令和2年度第3回総会</p> <p>○報告事項</p> <p>報告第1号 水田農業をめぐる情勢等について</p> <p>報告第2号 令和3年産米の地域の合理的な単収の設定について</p> <p>○議題</p> <p>議案第1号 令和3年度水田収益力強化ビジョンの考え方および今後の推進（案）について</p> <p>議案第2号 「新市場開拓に向けた水田リノベーション事業」等への取り組みの基本的考え方（案）について</p> <p>議案第3号 専門部会の改廃（案）について</p> <p>議案第4号 令和3年度産地交付金（案）について</p> <p>出席者：本人出席者7名、代理出席者1名 委任状出席者3名 計11名 （事務局7名、東北農政局福島県拠点2名）</p>
1月～2月		<p>3年度版営農計画書の作成・配付</p> <p>発行部数 88,500部</p>

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
2月3日	ビッグパレットふくしま	<p>福島県水田農業確立に向けた推進大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水田農業をめぐる情勢について ○令和3年産米にかかる取り組みの基本的考え方について ○実践報告 ○決意表明 ○大会決議採択 <p>参集者：方針作成者、地域農業再生協議会、一般社団法人福島県農業会議、うつくしまふくしま農業法人協会、県稲作経営者会議、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計 252 名</p>
2月9日	NOSAI いわせ石川支所	<p>令和3年産米の需要に応じた生産・販売にかかる第2回地域農業再生協議会説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水田農業をめぐる情勢について ○令和3年産米の地域の合理的な単収の設定について ○令和3年度水田収益力強化ビジョンの考え方および今後の推進について ○「新市場開拓に向けた水田リノベーション事業」等への取り組みの基本的考え方と取り組み状況 ○令和3年度産地交付金について ○福島県の独自支援策について ○令和3年度水田収益力強化ビジョン策定にかかる留意点 <p>参集者：方針作成者、地域農業再生協議会、東北農政局福島県拠点、県、県推進会議構成員 計 131 名</p>
2月13日		<p>令和3年産米の米づくりに向けた新聞広告掲載 「昨年の主食用米の作付面積の1割程度を目途に飼料用米等に転換して下さい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞広告 3紙 (福島民報、福島民友、日本農業)

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
2月16日	農業総合センター	令和3年産米の需要に応じた生産・販売にかかる 推進会議（福島県水田畑作課主催） ○水田農業をめぐる情勢について ○令和3年産米の需要に応じた生産・販売にかかる 今後の推進 参集者：県、県推進会議事務局 計25名
2月18日		農業者向けパンフレットの発行・送付 ・産地づくり通信第20号 「令和3年産の米づくりに向けて」 作成部数 87,800部
2月19日 25日	NOSAI いわせ 石川支所 JA 会津よつ ば坂下本店 南相馬市労働 福社会館	令和3年産米の需要に応じた生産・販売にかかる 地域農業再生協議会との地区別意見交換会 ○水田農業をめぐる情勢について ○各地域農業再生協議会の取り組み状況について 参集者：地域農業再生協議会（県中、県南、会 津、浜通り方部）、東北農政局福島県拠点、県、 県推進会議事務局 計71名
2月24日	NOSAI いわせ 石川支所	令和3年産米の需要に応じた生産・販売にかかる 方針作成者・集荷業者との意見交換会 ○水田農業をめぐる情勢について ○各方針作成者・集荷業者の取り組み状況につい て 参集者：方針作成者、東北農政局福島県拠点、 県、県推進会議構成員 計29名
2月26日	JA 福島ビル	令和2年度第4回総会 ○議題 議案第1号 規約および諸規程の一部改正につい て ※書面による議決

日 時	場 所	実施内容・参加者（出席者）
3月26日	福島県庁	<p>令和2年度第5回総会</p> <p>○報告事項</p> <p>報告第1号 水田農業をめぐる情勢について</p> <p>報告第2号 令和3年度転換作物拡大計画とりまとめおよび「新市場開拓に向けた水田リノベーション事業」等の取り組み状況等について</p> <p>○議題</p> <p>議案第1号 専門部会の設置（案）について</p> <p>議案第2号 令和3年度事業計画（案）について</p> <p>議案第3号 令和3年度収支予算（案）について</p> <p>議案第4号 令和3年度負担金の賦課及び徴収方法（案）について</p> <p>議題第5号 事務経費に係る費用の負担に関する協定書（案）について</p> <p>議題第6号 事務手続き等に関する付帯決議（案）について</p> <p>出席者：本人出席者5名、代理出席者4名 委任状出席者2名 計11名 （事務局6名、東北農政局福島県拠点2名）</p>

<参考資料>

- 「令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向」（ポイント）
- 令和3年3月末地域農業再生協議会別制度別・用途別作付動向
- 生産者向新聞広告、生産者向けポスター・チラシ

「令和3年以降の福島県水田農業のあり方にかかる今後の方向」ポイント

【はじめに】

- 平成30年産米からの国の「米政策の見直し」に対応するため、県推進会議として「30年以降の福島県水田農業の推進方針」を決定。
- 平成30年・令和元年・令和2年と「生産数量の目安(面積)」を設定し、水田フル活用の取り組みを推進。
- 現在、3年目の取り組みの最中、基本的に過剰基調の需給環境にあるなか、一方で担い手減少や耕作放棄地の拡大など生産基盤の崩壊が進む。
- 需要構造をみても全体需要量が減少するなかでも業務用比率が拡大するなどの変化が進む。
- 今後の水田農業は水田フル活用と同時に、担い手・農地対策などが生産基盤維持のための取り組みが極めて重要。
- 国内需要量減少が続くなかで、産地として相対的な競争力を確保するため生産コストの削減や流通・販売対策が極めて重要。
- 県域全体の方針とともに、地域特性をふまえた地域農業再生協議会ごとの取り組みの強化が重要。
- 情勢・環境変化と一定の将来予測にもとづき、中間的な見直し検討をすすめ、令和3年産米以降の取り組みに反映。

情勢・環境変化

【需要面（主食用米）】

- 人口減少・高齢化・一人当たり消費量減少による国内需要量減少は今後とも継続かつ加速
- 食の外部化による消費構造変化、食の多様化（健康志向・米の非主食化）、単身世帯増加による個食化等がますます進展
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、需要の減少により需要量減少のスピードは加速
- 業務用需要の比率は今後とも増加、加工品消費増加など多様な形態での消費が進展
- 卸売業者の再編、インターネット販売の増大など、流通チャネルの多様化は更に加速。

【気象変動等】

- 地球温暖化は今後も続く可能性、近年異常気象・大規模災害が多発
- 現在の品種構成、栽培体系は、この変化に適應できない可能性
- コシヒカリ中心の現行品種構成が、将来とも最適であるのか検討が必要な段階
- 一方、コロナ禍対応による生産活動の縮小は、地球温暖化に対しブレーキをかける可能性

【生産面】

- 生産年齢の高齢化は今後とも継続、一定時期に大量にリタイアする可能性
- 担い手層の拡大も停滞気味、大量に生産者がリタイアした場合、農地は耕作放棄地化
- 農地集積はすすまず、コスト削減もすすまない可能性
- 将来的な生産基盤は大きく縮小する可能性、米価の大幅変動は、この状況を加速
- ICT・ロボット技術等を活用したスマート農業の急速な進展の可能性

【制度面】

- 県域主体の水田フル活用ビジョンにもとづく需要に応じた米生産・販売の運用は限界
- 一方、地域農業再生協議会を主体とする水田フル活用ビジョンの運用は実効性が課題
- 水田活用の直接支払交付金の体系・予算規模は今後とも継続されるのか不透明
- 備蓄米の運用改善は、実質的な主食用米の拡大、その規模・価格は将来的に担保されるのか不明
- 収入保険による新たなセーフティネット体系の確立、ナラシ対策の位置づけが中途半端な状況

将来予測

- 主食用米の国内需要量減少が、コロナ禍の影響により当初想定よりも加速
- 水田フル活用による需要に応じた米生産・販売と担い手・農地集積などの生産基盤対策の取り組みがうまく連動しない状況が想定
- その結果、短期的には米価下落の継続、中長期的には生産基盤の縮小による水田農業全体としての生産額の大幅縮小が惹起される可能性
- ICTやロボット技術を活用したスマート農業の急速な台頭。

今後の取り組み方向

水田フル活用の取り組み

【主食用米】

- 「生産数量の目安(面積)」について、県全体の設定は今後も継続、地域農業再生協議会別の設定は令和3年産以降行わない
- 水田フル活用ビジョン策定にあたり、制度別・用途別作付計画と連動した10a当たり収入・生産コスト目標を設定(県域・地域)
- 地域農業再生協議会単位で銘柄別作付計画を策定

【非主食用米】

- 備蓄米は令和2年産ベースに数量・面積を押さえていくことを基本に取り組む
- 取り組みの中心は飼料用米で、生産拡大・収量確保・収入確保・円滑な販売の観点から、取り組み目標を設定
- 加工用米・輸出用米はコスト削減をすすめ、低価格販売でも所得が確保できる方向を目指す

【麦・大豆】

- 実需が要望する品種の導入・拡大を推進
- 排水対策等基本技術徹底による収量・品質向上
- 収穫・乾燥調製施設の整備促進

【園芸作物】

- 園芸推進部門と連携した組織横断的導入推進
- 園芸作物導入対象者の発掘推進
- 基盤整備事業と併せた園芸作物の導入推進

【飼料作物】

- 畜産農業者・コントラクターと連携し飼料作物の作付推進
- 基本技術励行による収量の確保

担い手・農地集積

- 人・農地プランにつながる話し合いを促進するため、地域の課題を明確にする取り組みを推進
- 法人、集落営農、新規就農、他産業からの参入促進
- 担い手の効率的経営のための環境づくり(基盤整備、多様な担い手確保集約化、農道水路の管理など)を人・農地プランの策定において検討

関係機関の役割分担

- 水田農業全体にかかる基本課題を議論する場を新たに設定
- 麦・大豆推進、高収益作物について、部門横断的な推進体制の構築

地方別水田農業

- 人・農地プランの実質化と担い手確保推進
- 地域に応じた大豆、畜産、園芸作物等の新たな産地づくり計画の策定
- 施設化・集出荷施設の集約も含めた物流の効率化や流通チャネルの多様化に対応した産地づくり

ふくしま米の今後の販売戦略

- 県全体の家庭用・業務用別生産・販売戦略、家庭用・業務用別品種構成のあり方を検討
- 同時に家庭用・業務用および用途別に合わせた価格体系・生産体系・生産コスト目標検討
- 県産米の県内販売比率の向上に向けた取り組み方針策定の具体化

主な目標指標（※は調整中、県の新たな「農林水産業振興計画」公表後更新予定）

項目	単位	現行	目標	目標年度
認定農業者	件	7,739	※8000以上	令和2年
農地利用率	%	45	※75以上	令和5年
新規就農者	件	219	※220以上	令和2年
オリジナル品種作付面積	ha	10,000	20,000	令和5年
飼料用米面積	ha	4,900	7,300	令和5年
加工用米面積	ha	424	1,100	令和5年
園芸作物(水田)	ha	2,042	2,200	令和5年
飼料作物(水田)	ha	1,655	2,000	令和5年
コシヒカリ作付比率	%	56	45	令和5年
県内消費率	%	64	90	令和5年
米価水準	円/60kg	15,200	14,500	令和5年
生産コスト	円/10a	115,512	100,000	令和5年
主食用米面積	ha	59,200	55,000	令和5年
大豆面積(水田)	ha	670	1,000	令和5年
麦面積(水田)	ha	300	600	令和5年
そば面積(水田)	ha	1,714	2,000	令和5年
事前契約数量	トン	48,000	70,000	令和5年

○令和3年産制度別・用途別作付動向（令和3年3月末）															取扱注意
地域農業再生協議会	市町村名	主食目安面積 A	主食用米作付面積 B=J-I	主食目安面積との差 C=B-A	加工用米 D	備蓄米 E	飼料用米 F	WCS G	その他 米粉用米	新市場開拓	その他	準ずる	その他計 H	非主食用米計 I=SUM(D:H)	全水稲作付面積 J
福島市地域農業再生協議会	福島市	1,560	1,612	52	0	50	229	53	1	0	0	3	4	336	1,948
川俣町地域農業再生協議会	川俣町	181	151	▲ 30	0	4	50	0	0	0	0	0	0	54	205
伊達市地域農業再生協議会	伊達市	875	950	75	0	13	131	22	0	0	0	0	0	166	1,116
桑折町地域農業再生協議会	桑折町	282	302	20	2	21	60	17	0	0	0	0	0	100	402
国見町地域農業再生協議会	国見町	304	310	6	0	27	72	1	0	0	0	0	0	101	411
二本松市地域農業再生協議会	二本松市	1,680	1,734	53	0	7	99	76	0	0	0	0	0	182	1,915
大玉村地域農業再生協議会	大玉村	775	798	24	0	42	44	0	0	0	0	0	0	86	884
本宮市地域農業再生協議会	本宮市	1,043	1,084	41	0	59	76	5	0	0	0	0	0	141	1,225
相馬市地域農業再生協議会	相馬市	1,406	1,511	105	0	59	436	9	0	0	0	0	0	505	2,015
南相馬市地域農業再生協議会	南相馬市	1,035	1,031	▲ 4	0	130	1,935	9	0	0	0	0	0	2,074	3,105
新地町地域農業再生協議会	新地町	436	436	▲ 0	0	104	120	0	0	0	0	0	0	224	660
飯館地域農業再生協議会	飯館村	44	57	13	0	0	64	49	0	0	0	0	0	113	170
郡山市農業再生協議会	郡山市	6,675	6,906	231	41	384	662	36	0	2	0	0	2	1,126	8,032
田村市地域農業再生協議会	田村市	1,256	1,298	43	0	57	77	84	0	0	0	0	0	218	1,517
三春町地域農業再生協議会	三春町	297	304	7	0	2	15	0	0	0	0	0	0	17	321
小野町地域農業再生協議会	小野町	421	432	11	0	17	13	3	0	0	0	0	0	33	465
いわき地域農業再生協議会	いわき市	3,252	3,464	212	5	139	538	32	1	0	0	0	1	715	4,179
広野町地域農業再生協議会	広野町	108	107	▲ 1	0	15	36	0	0	0	0	0	0	51	158
檜葉町地域農業再生協議会	檜葉町	155	155	0	0	24	95	26	0	0	0	0	0	145	300
富岡町地域農業再生協議会	富岡町	20	35	15	0	0	35	0	0	0	0	0	0	35	70
川内村地域農業再生協議会	川内村	102	100	▲ 2	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100	200
大熊町地域農業再生協議会	大熊町	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
双葉町地域農業再生協議会	双葉町	20	24	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
浪江町地域農業再生協議会	浪江町	93	157	64	0	0	20	2	0	1	0	0	1	23	180
葛尾村地域農業再生協議会	葛尾村	23	28	5	0	0	12	8	0	0	0	0	0	20	49
須賀川市地域農業再生協議会	須賀川市	3,757	3,949	192	200	342	200	15	0	3	1	0	4	761	4,710
鏡石町地域農業再生協議会	鏡石町	702	755	53	3	42	32	0	0	0	0	0	0	77	832
天栄村地域農業再生協議会	天栄村	698	752	54	0	35	64	6	0	0	0	0	0	105	857
石川町農業再生協議会	石川町	583	604	21	0	25	60	37	0	0	0	0	0	122	726
玉川町農業再生協議会	玉川村	296	309	13	0	6	7	1	0	0	0	0	0	14	323
平田村農業再生協議会	平田村	376	406	29	0	37	55	18	0	0	0	0	0	109	515
浅川町農業再生協議会	浅川町	422	444	22	1	3	46	2	0	0	0	0	0	51	495
古殿町農業再生協議会	古殿町	206	217	11	0	0	34	29	0	0	0	0	0	63	280
白河市農業再生協議会	白河市	3,005	2,973	▲ 32	14	93	338	22	0	0	0	0	0	467	3,440
西郷村農業再生協議会	西郷村	713	734	21	0	75	40	110	0	0	0	0	0	225	958
泉崎村地域農業再生協議会	泉崎村	541	577	36	0	79	8	2	0	0	0	0	0	89	666
中島村地域農業再生協議会	中島村	425	424	▲ 0	0	84	28	0	0	0	0	0	0	113	537
矢吹町農業再生協議会	矢吹町	1,138	1,217	79	1	72	10	10	0	0	0	0	0	92	1,309
棚倉町農業再生協議会	棚倉町	743	773	30	3	65	100	21	0	0	0	0	0	188	961
矢祭町地域農業再生協議会	矢祭町	252	263	11	0	19	43	8	0	0	0	0	0	69	332
塙町農業再生協議会	塙町	422	439	16	0	46	31	11	0	0	0	0	0	88	527
鮫川村地域農業再生協議会	鮫川村	199	188	▲ 11	0	13	52	62	6	0	1	0	7	134	321
会津若松市農業再生協議会	会津若松市	3,629	3,887	258	45	641	259	8	0	0	0	0	0	953	4,840
磐梯町地域農業再生協議会	磐梯町	328	352	24	0	27	20	0	0	0	0	0	0	48	399
猪苗代町農業活性化協議会	猪苗代町	1,435	1,435	▲ 0	81	432	270	21	0	0	0	0	0	804	2,239
喜多方市農業振興協議会	喜多方市	4,673	5,001	328	37	300	212	111	0	24	0	0	24	684	5,685
北塩原村農業再生協議会	北塩原村	183	188	5	0	8	0	0	0	0	0	0	0	8	196
西会津町農業再生協議会	西会津町	554	571	17	0	7	18	3	0	0	0	0	0	28	599
会津みどり地域農業再生協議会	会津坂下町	2,000	1,997	▲ 3	8	394	189	38	0	0	0	2	2	631	2,628
	湯川村	716	673	▲ 44	0	197	78	0	0	0	0	0	0	275	948
	柳津町	258	265	7	0	16	0	0	0	0	0	0	0	16	281
	三島町	37	38	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	40
	金山町	106	104	▲ 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104
	昭和村	150	155	5	0	0	16	0	0	0	0	0	0	16	171
	会津美里町	2,252	2,398	146	2	384	13	0	0	3	0	0	3	403	2,801
	計	5,520	5,629	109	12	991	297	38	0	3	0	2	5	1,343	6,973
下郷町農業再生協議会	下郷町	369	378	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	379
只見町農業再生協議会	只見町	342	347	5	0	20	27	0	0	0	0	4	4	51	398
南会津町農業再生協議会	南会津町	846	901	55	0	44	29	27	0	0	0	0	0	100	1,001
福島県計		55,700	58,147	2,447	446	4,661	7,200	995	8	33	2	9	51	13,354	71,500
調整		0	▲ 343	▲ 343	0	317	0	0	0	0	0	26	26	343	0
福島県計（調整後）		55,700	57,803	2,104	446	4,979	7,200	995	8	33	2	35	77	13,697	71,500

												取扱注意
												単位：h a
地域農業再生協議会	市町村名	2年産米					3年産－2年産					
		主食用米	非主食用米	飼料用米	備蓄米	全水稲作付面積	主食用米	非主食用米	飼料用米	備蓄米	全水稲作付面積	
福島市地域農業再生協議会	福島市	1,641	306	201	50	1,948	▲ 29	30	28	0	0	
川俣町地域農業再生協議会	川俣町	172	5	2	3	177	▲ 21	50	48	1	28	
伊達市地域農業再生協議会	伊達市	939	182	114	44	1,121	11	▲ 16	17	▲ 32	▲ 5	
桑折町地域農業再生協議会	桑折町	303	99	60	21	402	▲ 1	1	0	0	0	
国見町地域農業再生協議会	国見町	329	94	65	27	423	▲ 19	7	7	0	▲ 12	
二本松市地域農業再生協議会	二本松市	1,768	160	77	14	1,928	▲ 35	22	22	▲ 6	▲ 13	
大玉村地域農業再生協議会	大玉村	833	56	13	42	889	▲ 35	30	31	▲ 0	▲ 4	
本宮市地域農業再生協議会	本宮市	1,105	122	42	75	1,228	▲ 21	18	34	▲ 16	▲ 3	
相馬市地域農業再生協議会	相馬市	1,486	457	344	103	1,943	24	48	93	▲ 44	72	
南相馬市地域農業再生協議会	南相馬市	1,031	2,074	1,935	130	3,105	0	0	0	0	0	
新地町地域農業再生協議会	新地町	462	198	97	101	660	▲ 26	26	23	3	0	
飯館地域農業再生協議会	飯館村	44	85	38	6	129	13	28	26	▲ 6	41	
郡山市農業再生協議会	郡山市	7,100	932	230	631	8,032	▲ 194	194	432	▲ 247	▲ 0	
田村市地域農業再生協議会	田村市	1,299	222	77	60	1,520	▲ 0	▲ 4	0	▲ 4	▲ 4	
三春町地域農業再生協議会	三春町	317	14	5	9	332	▲ 13	3	10	▲ 7	▲ 11	
小野町地域農業再生協議会	小野町	445	28	10	15	473	▲ 13	5	3	2	▲ 8	
いわき地域農業再生協議会	いわき市	3,498	674	497	139	4,172	▲ 34	41	41	0	7	
広野町地域農業再生協議会	広野町	107	50	36	15	158	▲ 0	1	0	0	0	
檜葉町地域農業再生協議会	檜葉町	145	93	67	24	238	10	52	28	0	62	
富岡町地域農業再生協議会	富岡町	18	9	3	6	27	17	26	32	▲ 6	43	
川内村地域農業再生協議会	川内村	100	83	83	0	183	▲ 0	17	17	0	17	
大熊町地域農業再生協議会	大熊町	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	
双葉町地域農業再生協議会	双葉町	24	0	0	0	24	0	0	0	0	0	
浪江町地域農業再生協議会	浪江町	67	23	9	14	90	90	0	11	▲ 14	90	
葛尾村地域農業再生協議会	葛尾村	23	13	10	0	36	5	8	2	0	13	
須賀川市地域農業再生協議会	須賀川市	4,031	674	119	342	4,705	▲ 82	87	81	▲ 0	5	
鏡石町地域農業再生協議会	鏡石町	745	77	32	42	822	10	0	0	0	10	
天栄村地域農業再生協議会	天栄村	752	105	64	35	857	0	▲ 0	▲ 0	0	0	
石川町農業再生協議会	石川町	615	111	48	25	726	▲ 12	12	12	▲ 0	0	
玉川町農業再生協議会	玉川村	315	11	4	6	326	▲ 6	3	3	▲ 0	▲ 3	
平田村農業再生協議会	平田村	406	109	55	37	515	0	0	0	0	0	
浅川町農業再生協議会	浅川町	444	51	46	3	495	0	0	0	0	0	
古殿町農業再生協議会	古殿町	217	63	34	0	280	0	▲ 0	0	0	0	
白河市農業再生協議会	白河市	3,163	265	34	152	3,427	▲ 190	202	304	▲ 59	13	
西郷村農業再生協議会	西郷村	766	193	0	75	958	▲ 32	32	40	0	0	
泉崎村地域農業再生協議会	泉崎村	577	89	6	79	667	▲ 1	0	2	▲ 0	▲ 1	
中島村地域農業再生協議会	中島村	447	90	27	63	537	▲ 23	23	1	21	0	
矢吹町農業再生協議会	矢吹町	1,224	89	6	72	1,313	▲ 7	3	3	0	▲ 4	
棚倉町農業再生協議会	棚倉町	791	171	83	65	962	▲ 18	17	17	0	▲ 1	
矢祭町地域農業再生協議会	矢祭町	265	71	43	21	336	▲ 2	▲ 2	0	▲ 2	▲ 4	
塙町農業再生協議会	塙町	444	86	21	56	531	▲ 6	1	10	▲ 10	▲ 4	
鮫川村地域農業再生協議会	鮫川村	209	112	40	13	321	▲ 22	22	12	0	0	
会津若松市農業再生協議会	会津若松市	3,935	941	90	797	4,876	▲ 48	12	169	▲ 156	▲ 36	
磐梯町地域農業再生協議会	磐梯町	356	44	6	38	399	▲ 4	4	14	▲ 10	0	
猪苗代町農業活性化協議会	猪苗代町	1,539	706	39	634	2,245	▲ 104	98	231	▲ 202	▲ 6	
喜多方市農業振興協議会	喜多方市	5,051	634	63	393	5,685	▲ 50	50	149	▲ 93	0	
北塩原村農業再生協議会	北塩原村	188	6	0	6	195	0	2	0	2	2	
西会津町農業再生協議会	西会津町	588	16	0	13	604	▲ 17	12	18	▲ 6	▲ 5	
会津みどり地域農業再生協議会	会津坂下町	2,176	452	4	394	2,628	▲ 179	179	186	0	0	
	湯川村	754	197	4	181	951	▲ 81	78	75	16	▲ 3	
	柳津町	271	15	0	15	286	▲ 6	1	0	1	▲ 5	
	三島町	37	2	0	1	40	0	▲ 0	0	▲ 0	0	
	金山町	105	1	0	1	106	▲ 1	▲ 1	0	▲ 1	▲ 2	
	昭和村	149	21	14	7	170	6	▲ 5	2	▲ 7	1	
	会津美里町	2,398	404	15	384	2,802	0	▲ 1	▲ 1	▲ 0	▲ 1	
計	5,891	1,092	36	982	6,983	▲ 261	251	262	9	▲ 10		
下郷町農業再生協議会	下郷町	388	0	0	0	388	▲ 10	1	0	1	▲ 9	
只見町農業再生協議会	只見町	366	41	17	20	407	▲ 19	10	10	0	▲ 9	
南会津町農業再生協議会	南会津町	899	104	7	70	1,003	1	▲ 3	23	▲ 26	▲ 2	
福島県計		59,200	11,932	4,933	5,566	69,801	▲ 1,054	1,422	2,267	▲ 905	1,699	
調整		0	28	0	2	1,399	▲ 343	▲ 1,056	0	315	▲ 1,399	
福島県計（調整後）		59,200	11,960	4,933	5,568	71,200	▲ 1,397	1,737	2,267	▲ 589	300	

生産者の皆さんへ

8月末の取組計画書の追加・変更期限が迫っています。 もう一押し、飼料用米の生産拡大に取り組みましょう！

生産者の皆さん、需給環境改善のため、飼料用米の生産拡大をもう一歩すすめましょう。県も緊急対策で**5,000円/10a**の加算措置を講じています。



JA・商系業者

そうなんだ、それじゃもう少し飼料用米に取り組んでみよう。



生産者

詳しくは、最寄りのJA・商系業者にお問い合わせください。

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

- 令和2年6月末民間在庫は201万ト(前年度+12万ト)となり、元年/2年の需要量は735万トから**▲22万ト減少し、713万ト**となりました。
- 需要量の**▲22万ト減少**は、平成23/24年から翌年度にかけて**▲32万ト**減少して以来の大きさです。
- 需要量の**▲22万ト減少のうち、福島県は約▲35千ト**を占め、実質的に**全国一の減少規模**です。
- このまま令和2年産米の作付面積が大きく減少せず、**平年並みの作柄**であれば需給環境は更に急速に悪化し、**米価下落**はもとより、**令和3年産米の生産・流通にも大きな影響**を与えます。

福島県農林水産部水田畑作課 〒960-8670 福島市杉妻町2-16 TEL.024-521-7369

JA福島中央会営農・農政部 〒960-0294 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル9階 TEL.024-554-3072

生産者の皆様へ

このままでは、令和3年産米価は大きく下落し、福島米の流通が滞ります!!

大変だ〜! どうしよう?



米価の動き、手取り対策を考えながら 昨年の主食用米の作付面積の1割程度を目途に 飼料用米等に転換して下さい

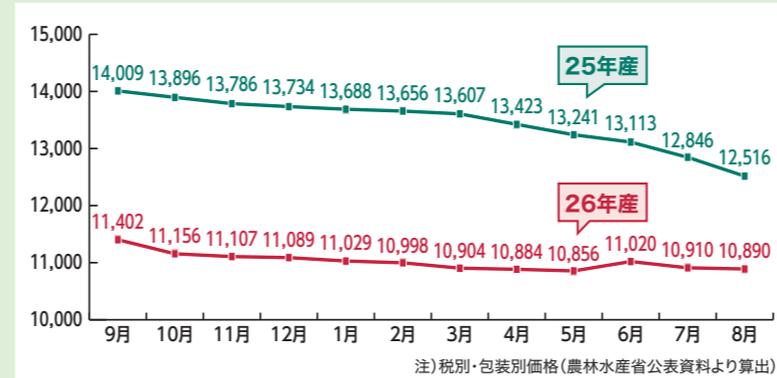
令和3年産米価の動向は不透明ですが、飼料用米は一定の手取りが見通せます。

人口減少による需要減少に加え、コロナ禍により急激に需要がそう失っています。このままでは令和4年6月末在庫は230万トンを超えてしまいます。

米価の動きは平成25・26年産とよく似ています。平成25年産は民間在庫の積み上がりにより米価は下落し、平成26年産米価は史上最低まで下落しました。令和2年・3年産は同じような動きになる可能性があります。

平成25・26年産米価の推移

単位:円/60kg



令和3年産米の手取試算(想定)

Table with 4 columns: 区分, 単位, 主食用米, 飼料用米. Rows include 販売収入 (販売価格, 流通経費, 手取り) and 助成金 (戦略作物助成, 産地交付金), totaling 94,500 for both main and feed rice.

【 県の独自支援策 】

○県独自支援策として令和2年度からの転換作物の拡大面積部分を対象(一定規模以上の拡大を要件)に●●●円/10aを支援。 ○国の「都道府県連携型助成」において県支援額と同額支援を予定。 注1)主食用米価格は、令和2年産米の令和2年12月価格から▲1,500円/60kg程度下落したとして試算。 注2)飼料用米の基準単収は9俵/10aと仮定。 注3)助成金は、設定要件をすべて満たした場合の金額。 注4)これ以外に地域農業再生協議会等からの支援あり。

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

福島県農林水産部水田畑作課 〒960-8670 福島市杉妻町2-16 TEL.024-521-7369 FAX.024-521-7942
JA福島中央会営農・農政部 〒960-0294 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル9階 TEL.024-554-3072 FAX.024-552-2786

令和3年産米の需要に応じた生産・販売のために

急激な需要の減少により、令和3年産は全国で▲40万トン、面積で▲7万ha規模の削減が必要です!!

福島県でも主食用米で▲3,500ha規模の削減に取り組みます!!

「主食用米」+「非主食用米」の水田フル活用により経営を安定させましょう!!



令和3年産米をとりまく情勢はどうなっているの？

人口減少による需要減少に加え、コロナ禍による急激な需要減少により、生産削減をしなければ令和4年6月末在庫は230万トンを超過します。
米価下落のみならず、販売が滞ります。



米価の先行きはどうなるのかな？

平成25年・26年の動きとよく似ています。
平成25年産は民間在庫の積み上がりにより、米価が下落し、平成26年産米価は史上最低まで下落しました。
令和2年産・3年産は同じような動きになる可能性があります。



米価の動き、手取り対策を考えながら、飼料用米、加工用米等に積極的に取り組むことが必要です。



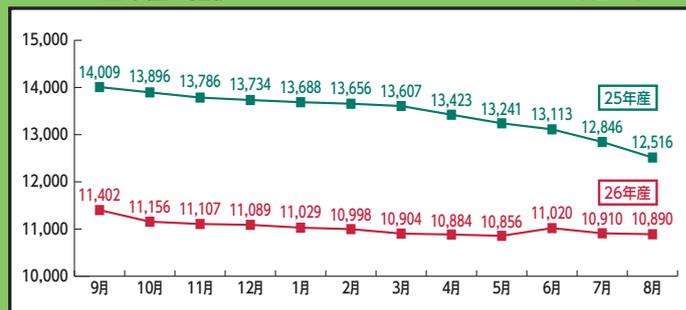
需給見通し

単位：万トン

項目	国の計画	▲36万トン削減しない場合
令和2年6月末在庫量	A 200	200
令和2年産生産量	B 723	723
令和2/3年主食用米供給量計	C=A+B 923	923
令和2/3年主食用米需要量	D 711~716	711~716
令和3年6月末在庫量	E=C-D 207~212	207~212
令和3年主食用米生産量	F 693	729
令和3/4年主食用米供給量計	G=E+F 900~905	936~941
令和3/4年主食用米需要量	H 705	705
令和4年6月末在庫量	I=G-H 195~200	231~236 → 米価は大幅下落

H25・26産米価の推移

単位：円/60kg

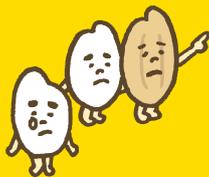


注) 税別・包装別価格 (農林水産省公表資料より算出)

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

生産者の皆様へ

主食用米
米価に赤信号が点灯!



こりや困ったな~!



昨年の主食用米の作付面積の1割程度を目途に飼料用米等に転換して下さい!

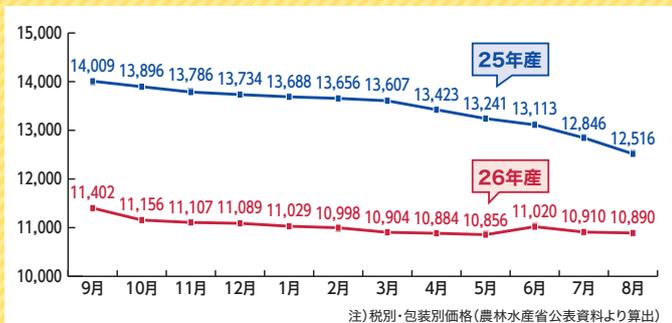
令和3年産主食用米の作付面積は、1月末時点で減少する見込みがたっておりません。このままでは令和3年産米価は確実に下落し、集荷・販売もとどこおってしまいます。状況は、平成25・26年産米よりも悪くなる可能性があり、影響は令和4年産以降に及ぶことが懸念されます。

このため、令和3年産主食用米を確実に削減することが必要です。備蓄米の入札は実質終了しました。今後は主食用米の1割を目途に飼料用米への転換に集中的に取り組んで下さい。飼料用米には、国・県から様々な支援が措置されており、収入を現時点で見通すことができます。種子は「天のつぶ」転用種子を十分用意しています。

令和3年産米価の動向は不透明ですが、飼料用米は一定の手取りが見通せます。

平成25・26年産米価の推移

単位:円/60kg



令和3年産米の手取試算(想定)

区分	単位	令和3年産米の手取試算(想定)	
		主食用米	飼料用米
販売	単収	9	9
収入	販売価格	12,500	1,200
	流通経費	2,000	1,200
助成金	戦略作物助成	80,000	0
	産地交付金(複数年)	12,000	0
計	産地交付金(大規模加算)	2,500	0
	収入計	94,500	94,500

【県の独自支援策】

○県独自支援策として令和2年度からの転換作物の拡大面積部分を対象(一定規模以上の拡大を要件)に2,500円/10aを支援予定。
 ○国の「都道府県連携型助成」において県支援額と同額支援を予定。
 注1) 主食用米価格は、令和2年産米の令和3年1月価格から▲1,500円/60kg程度下落したとして試算。
 注2) 飼料用米の基準単収は9俵/10aと仮定。
 注3) 助成金は、設定要件をすべて満たした場合の金額。
 これ以外に地域農業再生協議会等からの支援があります。

◆◆◆ 詳しくは最寄りのJA・集荷業者まで問い合わせ願います ◆◆◆

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

福島県農林水産部水田畑作課
 〒960-8670 福島市杉妻町2-16
 TEL.024-521-7369 FAX.024-521-7942

JA福島中央会営農・農政部
 〒960-0294 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル9階
 TEL.024-554-3072 FAX.024-552-2786

昨年の主食用米の1割程度を目途に飼料用米に転換してください。

このままでは、本当に平成26年産米の再来となります。

令和3年2月末の作付動向でも、令和3年産主食用米の削減目標▲3,500haに対し、今後▲2,700ha以上の削減が必要な状況です。飼料用米への転換をすすめ、戦略作物助成金、産地交付金、県、市町村等の独自支援を活用し、10a当たり収入を確実に確保しましょう。



令和2・3年産米は、平成25・26年産米と似ている
 というけど
 具体的に
 どういうことなの？

平成25・26年産米を中心とする民間在庫と米価の動きは、以下の通りです。
 米価の動きは民間在庫と1年遅れで連動しますが、平成26年6月末民間在庫は255万トンと近年では最大となり平成26年産米価は10,921円/60kgまで大きく下落しました。福島県の中通りコシヒカリもこの影響を受け、平成26年産米価は8,941円/60kgまで大幅に下落しています。



民間在庫と米価の動き(過去の動向と直近の米価)

【全国】

	民間在庫		米価	
	前年産	前年産	前年産	前年産
25年6月末	234	+54	24年産 15,119	+1,191
26年6月末	255	+21	25年産 13,119	▲2,000
27年6月末	226	▲29	26年産 10,921	▲2,198
28年6月末	204	▲22	27年産 12,039	+1,118

大幅な下落
▲4,198円

令和2年産
 令和3年2月末 価格
13,674円/60kg

【福島県・中通りコシヒカリ】

	民間在庫		米価	
	前年産	前年産	前年産	前年産
25年6月末	141	+22	24年産 14,520	+1,549
26年6月末	147	+6	25年産 11,790	▲2,730
27年6月末	108	▲39	26年産 8,941	▲2,849
28年6月末	109	+1	27年産 10,996	+2,055

大幅な下落
▲5,579円

令和2年産
 令和3年2月末 価格
12,355円/60kg

令和2年産米の令和3年1月末在庫も前年同時期対比+27万トンも増加しており、全国平均の令和2年産米の令和3年2月末米価は13,674円/60kgと平成25年米価に近づいています。このまま主食用米を削減せず、需要環境が改善されないならば米価は一層下落していきます。令和2年産福島県中通りコシヒカリも同様の動きを示しています。

飼料用米は一定の手取りが見通せます。
地域ごとに手取試算を行い、
令和2年産主食用作付の1割を
目途に飼料用米に転換しましょう。
種子は天のつぶの転用種子を十分用意
しています。

令和3年産米の手取試算(想定)

区分	単位	主食用米	飼料用米
単収	俵/10a	9	9
販売収入	販売価格	12,500	1,200
	流通経費	2,000	1,200
	手取り	10,500	0
助成金	手取り	94,500	0
	戦略作物助成		80,000
	産地交付金(複数年)		12,000
	産地交付金(大規模加算)		2,500
計		94,500	94,500
収入計	円/10a	94,500	94,500

県の独自支援策

- 県独自支援策として令和2年度からの転換作物の拡大面積部分を対象(一定規模以上の拡大を要件)に**2,500円/10aを支援**予定。
- 国の「都道府県連携型助成」において**県支援額と同額支援**を予定。

注1) 主食用米価格は、令和2年産米の令和3年1月価格から▲1,500円/60kg程度下落したとして試算。
 注2) 飼料用米の基準単収は9俵/10aと仮定。
 注3) 助成金は、設定要件をすべて満たした場合の金額。

これ以外に地域農業再生協議会等からの支援があります。

◆◆◆ 詳しくは最寄りのJA・集荷業者まで問い合わせ願います ◆◆◆

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

福島県農林水産部水田畑作課
 〒960-8670 福島市杉妻町2-16
 TEL.024-521-7369 FAX.024-521-7942

JA福島中央会営農・農政部
 〒960-0294 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル9階
 TEL.024-554-3072 FAX.024-552-2786

3. 収支決算書

令和2年度収支決算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

○水田農業改革支援事業（経営所得安定対策等推進事業費）補助金等会計

1. 収入の部

(単位：円)

科目		予算額	決算額	予算差異		備考
大科目	中科目			増	減	
補助金	水田農業改革支援事業補助金	12,104,000	12,704,000	600,000		
負担金	負担金	2,000,000	2,000,000			県 1,000,000 中央会 1,000,000
前年度繰越金	一般管理費繰越金	800,000	828,068	28,068		
収入合計(A)		14,904,000	15,532,068	628,068		

2. 支出の部

(単位：円)

科目		予算額	決算額	予算差異		備考
大科目	中科目			増	減	
管理費	一般管理費	14,904,000	14,726,070		177,930	
支出合計(B)		14,904,000	14,726,070		177,930	

3. 差引残高(A-B)

805,998 円

4. 財産目録

財 産 目 録 令和3年3月31日現在

(単位:円)

摘 要	金 額		
	内 訳	小 計	合 計
I 資産の部			
1 預金			
① I 水田農業改革支援事業補助金等会計	898,295		
合計		898,295	898,295
資産合計			898,295
II 負債の部			
1 未払金			
① I 水田農業改革支援事業補助金等会計			
(内訳) ・2月分コピー代	86,347		
・3月分後納郵便	5,950		
合計		92,297	92,297
負債合計			92,297
正味財産			805,998

監査報告書

私たち監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの福島県水田農業産地づくり対策等推進会議の事業の執行を監査しました。

その結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査方法の概要

監事は、事務局から事業の報告を聴取し、重要な書類等の閲覧および財産の状況を調査し、業務の報告を求めました。

また、会計帳簿等の調査を行い、事業報告書、収支決算書および財産目録について精査を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告書は、事業の実施状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、収支決算書の記載と合致しているものと認めます。
- (3) 財産目録は、記載すべき財産を正しく記載しているものと認めます。

令和3年5月20日

福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

監事 小松 信之



監事 安田 清敏

